

「自慢の野木第二中学校」

生徒会長 鈴木 翔太

私たちが通っている野木第二中学校では、「自ら動く」という生徒会スローガンを掲げ、生徒が主体的に活動できるような学校を目指しています。特に、今年度はその中でも、「創意工夫」という重点項目を設定し、二中生全体で当たり前のことを当たり前に行いつつ、様々な変化をもたらし、いけるように、日々の学校生活に励んでいます。昨年度からSDGsにも力を入れており、今年度も引き続き、SDGsの視点をもつて私たち中学生には何ができるのかを考え、実行していきます。

工場回収や、地域との交流、あいさつの向上などの、様々な活動を通して、生徒主体の学校づくりができるようにしていきたいです。

「運動会」

生徒会役員 岸 直輝

運動会は三大行事の中でも一番初めに行われ、最も盛り上がる行事の一つです。生徒は紅団・白団・青団の三チームに分かれます。それぞれが自分の団のために全力を尽くし、優勝を目指して競います。運動会のメインとなる大玉リレーや玉入れでは、一・二・三年生が混合でチームを組むことを通して、他

学年の人たちとも交流を深めることができます。また、運動会前の練習にも、一人一人が意欲的に参加し、団のみんなとアドバイスをしたり、作戦を考えたりしており、学年を超えて協力している姿が見られました。運動会を通して、他学年との絆を深めたり、協力する力を身につけたりすることができたため、とてもよい経験になりました。

「二中音楽会」

生徒会副会長 入澤 翼

エニホールでの開催となった音楽会。審査の先生もお呼びして、多くの保護者の方にも参加していただいた上で、開催することができました。昨年度の音楽会は、三年ぶりの開催ということもあり、楽しみにしていた生徒が多かったように思います。全クラスが実行委員を中心として目標を決めて、団結して練習に励みました。

音楽会当日になると、各クラスの歌声がホールに響き渡り、音楽会への気持ちや努力の成果などが、クラスの歌声の中に詰まっています。全クラスの中でもっとも優れたクラスに送られるハーモニ大賞は三年二組「証」に送られました。どのクラスも素晴らしい合唱で、記憶に残る行

事となりました。今年はどうな歌声が響き渡るのか、今からとても楽しみです。

「輝光祭」

生徒会役員 高橋 要

昨年の輝光祭では、世界で注目されているSDGsを学校全体のテーマに設定しました。クラスごとにSDGsの達成目標を一つ選び、そのテーマへの理解を深めていきました。一人ひとりがSDGsについて真剣に考え、クラスで協力して学級展示を作成することができました。また、英語スピーチや、和太鼓、ダンスなど、日頃から取り組んでいる活動を披露する学習発表や、特技等を披露するオンステージなどもあり、友人の普段はなかなか見ることができない一面を垣間見ることができました。

輝光祭は、生徒全員が楽しむだけでなく、楽しみながらも学びを深めることができる場となりました。SDGsをメインとした学びの場を、これからも広げていきます。

「総合体験学習」

生徒会副会長 内堀 花音

本校では昨年度、新型コロナウイルスの影響で長い間行

えていかなかった総合体験学習を三年ぶりに行うことができました。これは地域の方々に講師を依頼し、自分が選んだ講座について半日教えていただいたり、実際に体験したりする活動です。講座は藍染、フラーボトル、漫画、茶道など合計十八個あり、その中から自分がやりたい講座を選択しました。それぞれの講座で、一・二・三年生が学年に関係なく協力し合っている姿が見られました。この体験活動を通して、普段の学校生活ではできない体験をしたり、他学年と交流を深めたりと、学びのある一日になったと思います。

「選択総合」

生徒会役員 磯 優希

毎年一学期から二学期にかけて、一週間に一度の総合的な学習の時間に、講師の方を招いたコース別の体験活動を行っています。コースは、グランドゴルフ・和太鼓・ダンス・漫画制作・フラーボトルの五講座です。講師の先生方に基本的な打ち方や動き方から、それらを応用した作品制作に至るまでを、丁寧に教えてもらっています。

近年では、講座で身につけた内容を、輝光祭で発表しています。作品を展示したり、

講師役となって他の生徒に体験してもらったりする活動を通して、学んだことを披露する機会を設けています。

「SAC・ビッグアート缶回収」

生徒会役員 倉持 真央

私たちが生徒会本部役員を中心とした中央委員会は、生徒会スローガンである「自ら動く」の活動の一環として、毎週木曜日の朝にSAC・ビッグアート缶回収を行っています。SAC回収では、様々な大きさのアルミ缶、新聞紙、段ボールを目的ごとに分別して回収し、換金して生徒会活動費に充てています。輝光祭の前夜祭で上がる花火の資金にも加えられています。ビッグアート缶回収では、350mlのアルミ缶を回収し、生徒達が協力して毎年約六千個ものアルミ缶からなる美しいモザイクアートを完成させます。輝光祭に合わせて作成を進め、野木二中の輝光祭の目玉となっています。創立以来三十三年間本校に受け継がれており、地域の方々からも「毎年楽しみにしています」とのあたたかい声を頂いています。野木二中の大切な歴史の一つであり、誇れる伝統行事となっているビッグアート、是非今年の秋にご覧になってください。